

#### 第4回高等学校部会について

2016年6月15日に中央教育審議会教育課程部会の高等学校部会が開催された。

10:00から12:00まで文部科学省3階1特別会議室で行われた。

一般傍聴者は40名程度であった。

今回の議題は以下の通りである。

- (1) 高等学校の教育課程の改善・充実について
  - 学習評価の在り方について
  - 取りまとめに向けた論点について
- (2) その他

まず、事務局より資料の説明があった。

資料 1-1「高等学校における学習評価について」では知識偏重の現状から目標に準拠した観点別評価、多面的な評価に向けて改善するための論点が示された。指導要録の改善やポートフォリオ型評価のキャリア・パスポートの活用、探究学習の評価方法、「高等学校基礎学力テスト（仮称）」の活用、学校外活動の単位認定などについて検討する必要がある。

資料 1-2「高等学校における学習評価に関する参考資料」では参考資料として、「ワーキンググループにおいて議論された評価の観点のイメージや観点別評価の実施状況、高大接続システム改革会議で議論された内容などが紹介された。

10:15頃から意見交換が行われた。

企業における評価を例に挙げ、一方的な通達ではなく評価者との間の話し合いが重要であり、評価者訓練が必要だとの意見があった。

学校ごとの特色が異なり、観点が定まっていないことが課題で、観点や指導事項をきちんと示し、評価の中身を明らかにしておくことよとの意見もあった。

教員は多忙ではあるものの、評価が教員の中核的業務であるとの自覚が必要であるとの指摘があった。

ポートフォリオのフォームなどテンプレートを国が作成し、生徒の自己評価をA0入試や推薦入試に活用できれば観点別評価が推進されるのではないかとの意見があった。また、ICTを活用して電子化されたポートフォリオなどの情報が大学へ提供されればよいのではという意見もあった。しかし、ICTの活用にはハード環境や個人情報保護の問題に留意する必要があるとの指摘もあった。

小・中に比べて1クラスの人数が多いことが教員の負担となっている原因の一つではないかと指摘する委員もあった。

11:10頃からは資料の説明があった。資料2「総則・評価特別部会、小学校部会、中学校部会、高等学校部会における取りまとめに向けた論点（案）」で、全体の骨子を示し、資料3「高等学校部会におけるこれまでの議論を踏まえ、『とりまとめ』に盛り込むことが考えられるポイント（案）」でこれまでの部会での議論のまとめを示した。

これについて意見交換が行われた。

カリキュラム・マネジメントは、校長を始め管理職の果たす役割が大きいので、授業改善につなげることの徹底をもっと強調してほしいとの意見があった。さらに、教員一人ひとりが意識を持つことが重要で、教員間で話し合う時間を体制として確保すべきとの意見もあった。また、高校の質の向上のためにPDCAサイクルで不断の努力が必要だということを感じてほしいとの要望もあった。

アクティブ・ラーニングについて、協働的なまなびとしての論理的な議論は、国語や外国語だけではなく社会科をはじめ他教科でも積極的に行うべきだとの意見があった。

「高等学校基礎学力テスト（仮称）」については、評価・改善にしっかり活かすことが重要だとの意見があった。

最後に、指導の改善は教員側からの視点だけではなく、生徒にとっても意味のあるものになるようにしなければならないとまとめた。

次回でこの部会は最終回となる。6月27日（月）10:00～12:00に開催し、とりまとめをする予定である。